

事後評価報告書
(日本-中国(NSFC)研究交流)

1. **研究課題名:** 廃バイオマスからの燃料ガス生産を最適化するための微生物フローラの制御技術開発

2. **研究代表者名:**

日本側: 大阪大学大学院 基礎工学研究科機能創成専攻 教授 三宅 淳

相手側: Tsinghua University, Department of Chemical Engineering Professor Xin-Hui Xing

3. **総合評価:** B

4. **事後評価結果**

(1) 研究成果の評価について

日本の基礎研究と中国の応用研究の交流によってお互いに研究がレベルアップし、性能の優れた水素生産用微生物触媒を調製して成果は得られている。今後の実用リアクターの開発基盤が確立したことはおおむね評価できる。日本側からは5編の論文が発表されているが、共同研究の原著論文はなく、研究面での中国側の貢献および成果が不明確である。また、中国側に基礎研究の基盤技術を提供したことは理解できるが、具体的に日本側の成果が中国側でどの程度活用されたかは示されていない。また、日本側にどのようなメリットがあったのかについても、本事業の報告書からは読み取れない。

2) 交流活動の評価について

日本側の大学院生を53日間相手国に派遣して研究を行わせ、中国側からの院生受入れ、日本側からの研究者派遣を通じて共同研究の基盤を構築しており、人材育成面で一定の成果は得られている。しかしながら、長期での中国側からの学生受入れや若手研究者招聘を実施していない為、結果的に連名の成果がほとんどないことは残念である。ポスドク・大学院生の長期受け入れ研究を実施することによって、共同研究としての成果発表に結び付けて欲しかった。

(3) その他

研究計画の段階で交流に係る旅費等の予算が少なく、試験研究費の比率が多いように思われた。国際交流にもう少し経費を割くべきであった。